

第6学年国語科学習指導案

平成16年10月 29日 5校時
釜石市立鶴住居小学校6年2組教室
6年2組 男12名 女16名 計28名
指導者 佐々木 須美子

- 1 単元名 「言葉と文化について考えよう」
外来語と日本文化

2 単元の目標

〈関心・意欲・態度〉

- ・言葉と文化について関心を持ち、進んで学習しようとしている。

〈話すこと・聞くこと〉

- ・初めて知ったことや思ったこと、さらに調べたいことをふさわしい形にまとめ、発表することができる。(ア)

〈書くこと〉

- ・各自取り組んだ内容を、分かりやすくまとめることができる。(ア)
- ・調査した内容を効果的に表現するために、発表の方法を工夫することができる。(オ)
- ・調べたことの中から必要な事柄や資料を選び、整理することができる。(イ)

〈読むこと〉

- ・言葉と文化について考える目的で文章を読み、内容を的確に押さえながら要旨をとらえ、要約することができる。(イ)
- ・書かれている内容について、事例と感想、意見の関係を押さえ、言葉と文化について自分の考えをもちながら読むことができる。(エ)

〈言語事項〉

- ・語感・言葉の使い方などに関心をもつことができる。(ウ (エ))
- ・文語に親しむことができる。(エ (ア))
- ・言葉についての由来や歴史、特質などについて理解を深めることができる。(ア (イ) ウ (イ))

3 単元の指導計画

学習時間 14時間 (読む7 話す・聞く2 書く5)

時	主な学習内容	評価規準
1	<p>○生活と関連させ全文を読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例文を提示し、生活の中で外来語が多く使われていることに気づかせる。 ・通読し、感想をまとめ、話し合う。 ・難語句・新出漢字について調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外来語に関心をもち、進んで学習しようとしている。(関心・意欲・態度) ・言葉と文化についてはじめて知ったことやもっと詳しく知りたいことを発表している。(関心・意欲・態度) ・辞書を使って語句の意味を調べることができる。(言語)
2	<p>○学習の見通しを持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大まかな文章構成を確認する。 <p>第1のまとめり 課題の提示 第2のまとめり 課題の解明 第3のまとめり 結び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要約の仕方を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大まかな文章構成がわかる。(読む) ・要約の仕方を理解している。(読む)
3 本 時	<p>○課題提示の部分を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カード・カルタ・カルテを比較し、読み取る。 ・課題提示の文を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで課題解決をしようとしている。(関心・意欲・態度) ・課題の伏線になる部分を見つけ、課題提示の文を考えている。(読む)
4	<p>○課題解明の部分を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いつ・どのようにして」などを観点にして読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事例と説明や意見との関係に注意して内容を読み取っている。(読む)
5	<p>○結びの部分を読み、まとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題に対する答えを要約する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・内容を的確に押さえながら要約している。(読む)
6	<p>○文化の交流を意識化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外来語クイズをする。 ・感想をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカで使われている日本語について関心をもち、進んで学習しようとしている。(関心・意欲・態度) ・学習を振り返り、感想を書いている。(書く)

7	<p>○日本語独特のリズムを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「現代を生きる五音・七音」を通読。 ・感想を話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の伝統的な言葉のリズムが現在の自分たちとつながっていることを読み取っている。(読む) ・日本独特の言葉のリズムや響きの心地よさに親しんでいる。(言語)
8	<p>○「言葉と文化の展示コーナー」を作る計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動の方向性を理解する。 ・課題をえらび、グループを作る。 ・「言葉の学習」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材文を参考にして、題材や展示の仕方を考えようとしている。 (関心・意欲・態度) ・漢字や語句を理解している。(言語)
9 10	<p>○発表に向けての準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「何を」「どのように」調べ、「どうまとめるか」をはっきりさせながら、活動を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が選んだ題材について進んで調べようとしている。(関心・意欲・態度) ・自分が選んだ題材について、必要な資料を選び、整理している。(書く)
11	<p>○中間発表会をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できているところまでを発表し、助言しあう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観点を明確にして発表したり聞いたりしている。(聞く・話す)
12 13	<p>○発表に向けて準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間発表でのアドバイスをもとに仕上げをする。 ・発表会に向けての役割分担をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調査や活動の内容をわかりやすくまとめている。(書く)
14	<p>○「言葉と文化」展示会を開催する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品を展示し、発表する。 ・感想の交流や反省を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の作品や発表に興味をもち、見たり聞いたりしようとしている。 (関心・意欲・態度) ・調査したことをふさわしい言葉にまとめ、資料を提示しながら発表している。(聞く・話す) ・友達の作品や発表から、内容のよさや構成のよさを見つけている。(書く)

4 単元について

(1) 教材について

本教材の主目標は、「言葉と文化について関心をもち、文章を読んで要旨をとらえ、自分の課題をもつ。」ことである。

「外来語と日本文化」は、室町時代や江戸時代に入ってきた外来語が、話題の中心である。本教材は、もうすっかり日本語化して、生活の中に定着している語を取り上げているために、児童にも理解しやすい形になっている。

「現代を生きる五音、七音」は、五音と七音を基調として表現されることの多い日本の伝統的表現法に触れることで、日本の言語文化の一面に触れることを目的としている。

『言葉と文化』展示館へ、ようこそ」は、以上の2つの教材を通して自分が持った課題について、児童自身の手で言葉を集め、作品を集めて、自分たち自身で言葉と文化のかかわりの様子を実感するための教材である。ここでの活動は、児童たちの興味・関心を高める最も大切な要素になると考えられる。

(2) 児童について

子どもたちは、5年生の時に、「地球環境について考えよう」で、地球環境の問題について学び、自分の課題を決めて調べる学習をしてきた。また、「一秒が一年をこわす」「ホテルのすむ水辺」や6年生の「火星に生命をさぐる」で、科学を内容とする説明文を学習し、筆者の考えや具体例を表現に注意しながら読み取ってきた。しかし、学年が進めば進むほど、読み取りの力にも個人差が出てくる。一読して本文のおよそを理解してしまう児童もいれば、一字ずつ拾い読みしながら文をたどる児童もいる。また、説明文の学習について苦手だと感じている児童もいる。

しかし、説明文単元を学習していく中で、文末表現に気をつけて読み取ることができるようになってきている。また、今まで学習した内容や自分の知識や経験等と結びつけて考えようとする児童もいる。

NRTの結果は、話すこと・聞くことが全国比108、書くこと110、読むこと101、言語事項115であり、読むことにやや課題がある。知能との関連を見ると、バランスドアチーバー25名(89%)、アンダーアチーバー3名(11%)となっている。

レディネステストの結果(正答率 %)

1. 漢字の読み仮名

- ① 記す (57) ② 同様 (93) ③ 貿易 (100) ④ 知識 (100)
⑤ 長所 (50) ⑥ 反映 (57) ⑦ 交わり (43) ⑧ 吸収 (75)

2. 読んで答える。

- ① 課題提示の文を見つける。 正答(57) ほぼ正答(21) 誤答(21)
② 「それは」の指していることを書く。正答(61) ほぼ正答(32) 誤答(7)

3. 二つの文を一つにする。 正答(75) 誤答(25)

P1 テストの結果 (正答率 %)

1. 漢字の読み仮名

- ① 服装 (96) ② 宗教 (18) ③ 幕府 (100) ④ 訳す (50)
⑤ 諸国 (36) ⑥ 習慣 (64) ⑦ 朗読 (88) ⑧ 創作 (75)

2. 言葉の意味

- ① 外来語 (36) ② 長所 (36) ③ 交流 (71)

3. 読んで答える。 正答 (39) ほぼ正答 (22) 誤答 (39)

(3) 指導について

確かな学力にせまるために、できるだけ多く本文を読ませるようにしていきたい。また、音読を取り入れることで、読みのあいまいさや不確かさや読めない文字などをはつきりさせ、しっかり読もうとする意欲を持たせるようにしたい。

また、学習の導入で、外来語クイズを取り入れるなどして「調べたい、もっと知りたい」という気持ちを持たせるようにして、調べ学習への興味関心を高めていきたい。

要旨を的確に読み取らせるために、段落相互の関係をしっかり理解させたい。また、読み取りは、要点を表にまとめさせたり文末表現に注意して読み取らせたりしながら理解を深めていきたい。さらに、身の回りの外来語や社会科の学習内容と関連させて考えさせるなどして、自分の考えを持たせながら学習を進めていきたい。

5 教材の関連と発展

火星に生命をさぐる (6年上) 外来語と日本文化 (6年下) 平和のとりでを築く (6年下)
筆者の立場や考えを 筆者の意図に沿って 主題や要旨をとらえ自分の
とらえる。 文章を要約する。 考えを深める。

6 本時の指導

(1) 本時の目標

〈関心・意欲・態度〉進んで課題解決をしようとしている。

〈読むこと〉カード・カルタ・カルテについて詳しく読み取り、課題提示の文
を作ることができる。

(2) 本時の展開

過程	学習活動	教師の主な発問と指示	予想される児童の反応	・支援 ☆評価
----	------	------------	------------	------------

<p>つかむ</p> <p>7</p>	<p>1. 前時の学習を想起する。</p> <p>2. 本時の学習課題を把握する。</p> <p>3. 学習場面を音読する。</p>	<p>・前の時間はどんなことを学習しましたか。</p> <p>・課題提示の文を見つけましょう。</p> <p>・今日の課題を読みましよう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>カード・カルタ・カルテについてくわしく読み取り、課題提示の文を作ろう。</p> </div> <p>各自読み→指名読み</p>	<p>・文章の構成について学習した。</p> <p>・どうしてこんなことになったのであろうか。</p> <p>各自読み→指名読み</p>	<p>・学習課題を読んでしっかりと課題をつかませる。</p>
<p>考える</p> <p>10</p>	<p>4. カード・カルタ・カルテの意味をとらえる。</p> <p>5. 共通点と相違点にサイドラインを引きワークシートにまとめる。</p>	<p>・カード・カルタ・カルテは、日本語ではどんな紙として使われているか。</p> <p>・3つの外来語について似ている点と違う点を見つけてワークシートにまとめましょう。</p>	<p>・カードは書き込みをして資料の整理や集計に使う小さな紙のこと。</p> <p>・カルタは百人一首のように遊びに使う。</p> <p>・カルテは医者が患者の病気の様子を書き込む紙のこと。</p> <p>・教科書にサイドラインを引く。</p> <p>・各自シートにまとめる。</p>	<p>・実物を用意し、視覚的に捕らえさせる。</p> <p>・サイドラインを引けない子には、「似ている点・大きな違いがある」の語句に気をつけて読むように促す。</p>
<p>確かめる</p>	<p>6. 読み取ったことを発表し、確かめる。</p>	<p>・似ている点はどこですか。</p> <p>・違う点はどこですか。</p>	<p>・「カ」の音で始まる。</p> <p>・「タ」行、「ダ」行の音で終わる。</p> <p>・かなり厚い紙である。</p> <p>・印刷したり書いたりする。</p> <p>・言葉を伝えた国が違う。</p> <p>・カードは英語。</p> <p>・カルタはポルトガル語。</p> <p>・カルテはドイツ語。</p>	<p>☆進んで課題解決をしようとしているか。(挙手・発言・ワークシート)</p>

13	7. 発表をもとに深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの国では、どんな意味の言葉ですか。 ・疑問に思ったことを発表しましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・字を記す厚手の紙をさす言葉。 ・日本語に入ってきたとたんに意味が変わったのはどうしてだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語での使われ方との違いをしっかりと捕らえさせる
15	8. 課題提示の文を作る。 9. まとめの音読をする。 10. 学習を振り返る。 11. 次の学習の予告をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・「こんなこと」とは何か、考えながら課題提示の文を書きましょう。 ・課題提示の文を発表しましょう。 ・意味が通る文になっているか確かめましょう。 ・一斉読み ・今日の学習の反省をしましょう。 ・課題についての答えを読み取っていきます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各自ワークシートにまとめる。 ・2・3名が発表し、まとめ方について話し合う。 ・一斉読み ・ワークシートの項目に記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「こんなこと」という指示語に具体的な言葉を補って課題提示の文を考えさせる。 ・自力で考えられない児童にはヒントカードを与える。 ☆課題提示の文を考えたか。(ワークシート)

(3) 本時の評価

具体的評価規準

評価項目	十分満足できる (A)	おおむね満足できる (B)	努力を要する児童への支援
〈関心・意欲・態度〉 課題提示の文を作るために、カード・カルタ・カルテの共通点や相違点や相違点を読もうとしているか。	カード・カルタ・カルテの共通点や相違点に興味を持ち、進んで発言しようとしていたり、ワークシートに書いたりしている。	カード・カルタ・カルテの共通点や相違点に興味を持ち、進んでワークシートに書こうとしている。	ヒントになる言葉に着目させ、サイドラインを引いたりワークシートに書いたりできるように支援する。

<p>〈読むこと〉 課題の伏線になる部分を見つけ、課題提示の文を考えることができたか。</p>	<p>「こんなことに」の指す部分をおさえ、キーワードを入れて内容を要約し意味の通る一文にまとめている。</p>	<p>「こんなことに」の指す部分をおさえ、意味の通る一文にまとめている。</p>	<p>「こんなこと」が何を指しているのか理解できるように助言する。二文を一文にする方法を助言する。</p>
---	---	--	---

A の例 どうして、カード・カルタ・カルテは**もともとは同じ言葉**だったのに、**日本語に入ってきたとたんに別々のちがう言葉**のようになったのであろうか。

B の例 どうして、これらの言葉は、もともとは字を記す厚手の紙を指す**同じ言葉**だった**のに**、日本語に入ってきたとたんに、どれも意味がせまくなり、別々のちがう言葉のようになってしまったのであろうか。

(4) 習熟度に応じて

レディネステストの結果をもとに、一人学びの場では机間指導を行い、個に対応していきたい。また、読み取りの力が十分でない児童に、ヒントカードを与えるなどして、解決の手助けとしていききたい。